

2013年9月12日

～「ペットのシニアライフに対する意識調査」～

ペットの老後について悩んでいませんか？

不安を感じている飼い主は **6割以上**も！

**7歳**から年を取ったと感じる方が増加傾向。

T&D保険グループのペット&ファミリー少額短期保険株式会社(東京都文京区、代表取締役社長：仲尾 孝)は、9月16日の『敬老の日』にちなんで、ペットを飼っている20～70代の男女1,260人を対象に、『ペットのシニアライフに対する意識調査』(インターネット調査)を実施しました。

「ペットの老後について不安を感じたことはありますか」と質問をしたところ、「現在感じている」(18.3%)、「感じたことがある」(44.0%)を合わせると6割以上(62.3%)のペットの飼い主が不安を抱えていることが分かりました。更にペットが年を取ったと感じ始める年齢に関して調査をしたところ、犬・猫共に7歳頃から増加傾向がみられ、全体では10歳の占率が最多の19.4%となりました。10歳前後の時期をペットのシニア期と認識する飼い主が多いようです。

このような中、「ペットが健康で長く幸せに生きられるように、若い時からしておいた方がいいこと」について質問をしたところ、「獣医さんの定期的検診とバランスのとれた食事、適度な日光浴と運動、ブラッシングなど清潔に保つ」「毎年の定期健診は欠かさず、シャンプーを週1回は行うようにしています。歯石は定期的に飼い主が除去してあげる(我が家ではやっていません)」など定期的な健康診断を中心に、食事や運動・ブラッシングなど飼い主自身が日々努力している様子がうかがえます。

また、年に1回以上の定期的な健康診断の受診率を調査したところ、健康診断を受診している割合は、平均で約5割(53.6%)という結果となり、シニア期になるほど受診率が低下する傾向がみられました。一方、入院や手術が必要な病気に罹患した経験があるペットの健康診断受診率は、平均で65.6%と高い数値を示しており、シニア期においても60%台の受診率を維持していることから、健康への不安が顕在化することによって、健康診断受診に対する意識が高まっていることがうかがえます。

ペットの健康に不安があるときはもちろん、健康な状態のときから、定期的な健康診断によるチェックや適切な生活習慣を身に付けることが、ペットのシニアライフを充実させるポイントと考えられます。

#### 調査概要

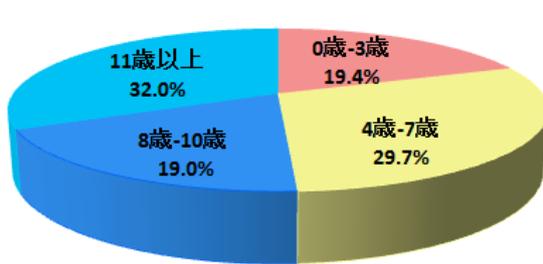
調査対象 : 全国の20～70代の男女 (ペットを飼っている方)

有効回答数 : 1,260サンプル (男性・871サンプル、女性・389サンプル)

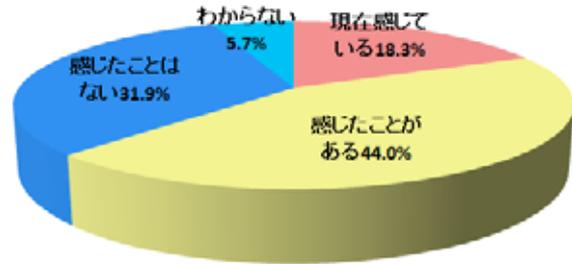
調査方法 : インターネットリサーチ

調査期間 : 2013年8月16日(金)～2013年8月18日(日)

調査結果概要



飼っているペットの年齢



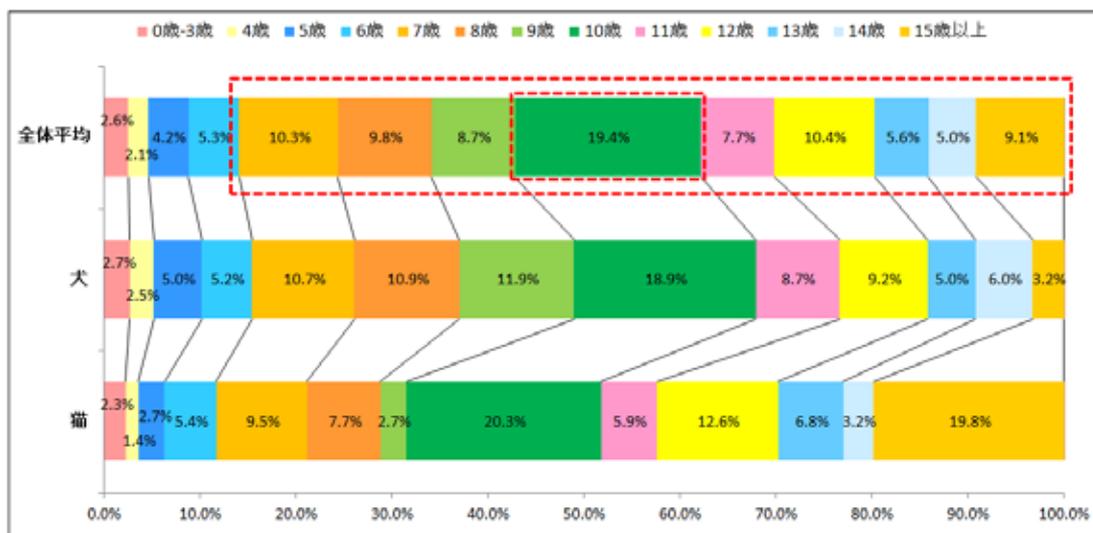
ペットの老後についての不安度

ペットの老後について具体的に不安に感じていることは何ですか。(複数回答)

回答結果	飼い主の年齢						全体平均
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	
病気・ケガの発症	83.3%	79.0%	82.3%	75.1%	73.7%	55.6%	77.1%
金銭的負担	50.0%	55.6%	38.8%	38.3%	27.7%	33.3%	38.4%
食事や世話をする時間の増加	41.7%	40.7%	31.5%	27.9%	22.6%	40.7%	30.2%
自分が面倒をみれなくなる	33.3%	17.3%	18.5%	15.2%	19.0%	59.3%	19.0%
ペットロス	41.7%	39.5%	35.8%	26.4%	25.5%	18.5%	30.7%
その他	0.0%	3.7%	3.8%	2.6%	3.6%	3.7%	3.3%

「病気・ケガの発症」(77.1%)、「金銭的負担」(38.4%)についての不安が大きいという結果となりました。また、飼い主の年齢別に回答結果を集計したところ、「自分が面倒をみれなくなる」について、70代の飼い主は59.3%の方が不安に感じており、全体平均19.0%と比べ約40ポイントもの差が出る結果となっています。ペットとの生活においても「老老介護」を懸念している飼い主が増えているようです。

ペットが年を取ったと感じ始める年齢の比較



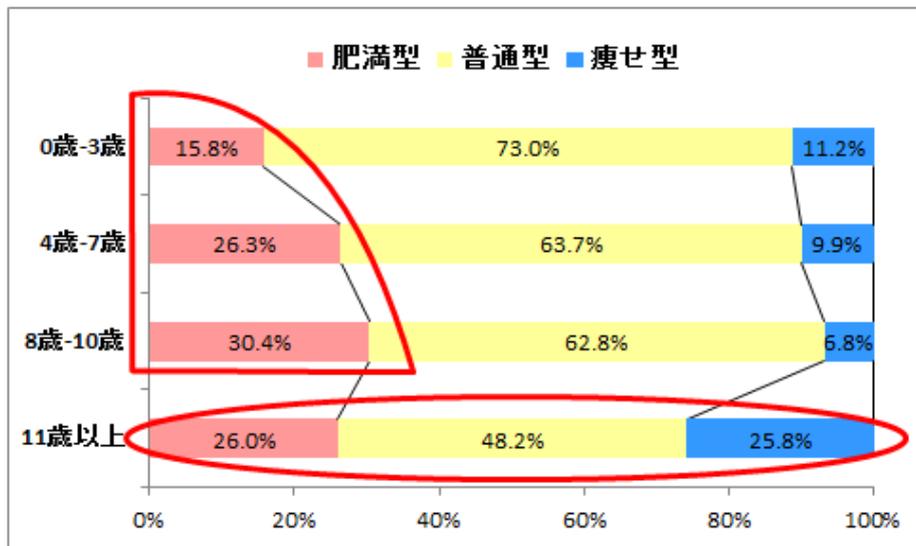
ペットが年を取ったと感じ始める年齢は、犬・猫共に7歳頃から増加傾向が見られ、全体では10歳の占率が最多の19.4%となりました。10歳前後の時期をペットのシニア期と認識する飼い主が多いようです。

年を取ったと感じた具体的なきっかけは何ですか。(7歳以上の犬・猫限定回答)

回答結果	飼っているペットの種類		全体平均
	犬	猫	
動きや体力の低下	39.0%	46.0%	41.5%
睡眠時間の増加	6.6%	11.9%	8.5%
運動量(散歩時間・距離)の変化	9.4%	1.7%	6.7%
食事の変化	3.1%	8.0%	4.9%
視力・聴力の変化	9.1%	2.8%	6.9%
見た目・体の変化	22.3%	15.9%	20.0%
性格・行動の変化	6.3%	9.7%	7.5%
病気	2.5%	1.7%	2.2%
その他	1.6%	2.3%	1.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

「動きや体力の低下」「見た目・体の変化」など、普段の生活の中で顕在化した変化を飼い主が敏感に感じ取っている様子がうかがえます。

#### ペットの年齢別体型比較



年齢が高くなるとともに、徐々に標準型から肥満型が増加し、11歳以上では痩せ型が大幅に増加しています。シニア期には肥満や痩せといった「見た目・体の変化」が起こる傾向が顕著に出ています。

#### 定期的(年に1回以上)な健康診断の受診率

回答結果	飼っているペットの年齢				全体平均
	0~3歳	4~7歳	8~10歳	11歳以上	
全体	63.9%	56.8%	52.1%	45.9%	53.6%
犬	74.7%	64.7%	60.6%	60.9%	63.7%
猫	46.1%	38.5%	31.8%	32.0%	36.0%

健康診断を受診している割合は、平均で約5割(53.6%)。犬と猫では受診率に差があるものの、犬・猫ともに、シニア期になるほど受診率が低下する傾向が見てとれます。

**病気罹患経験とペットの健康診断受診率**
**【病気を経験したことがある】**

回答結果	飼っているペットの年齢				全体平均
	0～3歳	4～7歳	8～10歳	11歳以上	
受診している	81.0%	65.0%	63.0%	62.0%	65.6%
受診していない	19.0%	35.0%	37.0%	38.0%	34.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

**【病気を経験したことがない】**

回答結果	飼っているペットの年齢				全体平均
	0～3歳	4～7歳	8～10歳	11歳以上	
受診している	56.3%	53.1%	45.1%	36.3%	47.8%
受診していない	43.7%	46.9%	54.9%	63.7%	52.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

入院や手術が必要な病気に罹患した経験があるペットの健康診断受診率は、平均で 65.6%と全体の受診率 53.6%と比べ高い数値を示しており、シニア期においても 60%台の受診率を維持しています。一方、罹患した経験がないペットの受診率は、平均で 47.8%となり年齢を重ねるほど受診率が低下する傾向を示しています。健康なペットほど、健康診断の受診率が低く、健康への不安が顕在化することによって、健康診断受診に対する意識が高まっていることがうかがえます。

**ペットが健康で長く幸せに生きられるように、若い時からしておいた方が良いことがあれば教えてください。(フリーアンサー)**

- 獣医さんの定期的検診とバランスのとれた食事、適度な日光浴と運動、ブラッシングなど清潔に保つ。
- 毎年の定期健診は欠かさず、シャンプーを週1回は行うようにしています。歯石は定期的に飼い主が除去してあげる(我が家ではやっています)。
- 食事の管理と健康診断、ペットを24時間受け入れてくれる救急動物病院を見つけておく。
- 嗜好性の高い食べ物をあげないほうがいいです。病気になった時に療法食を食べたがらないので。
- ラブラドルやゴールデンは腫瘍が得意な犬種なので、毎日リンパ節やお腹などを触って定期健診をする。
- 話しかけたりコミュニケーションをなるべく取るようにしておく、ペットの態度や声の変化などに気がやすい。
- 歯磨きを毎日続けています。そのおかげで近所のお散歩仲間のワンちゃんより、若くて健康でいられます。
- いつも、同じ時間に同じ行動をしない様になっている。出来ない時に、ストレスを感じないように工夫しています。

「獣医さんの定期的検診とバランスのとれた食事、適度な日光浴と運動、ブラッシングなど清潔に保つ」  
 「毎年の定期健診は欠かさず、シャンプーを週1回は行うようにしています。歯石は定期的に飼い主が除去してあげる(我が家ではやっています)」など定期的な健康診断を中心に、食事や運動・ブラッシングなど飼い主自身の日々の努力がペットのシニアライフを充実させるポイントと考えられます。